

学力向上を図る効果的な NIE のあり方
 ～NIE 実践校 3 年目の取組を通して～

1 はじめに

本校は、1 年生 2 名、2 年生 4 名、3 年生 2 名、4 年生 2 名、5 年生 4 名の合計 14 名の 3 学級である。職員は、学校長、教頭、教諭 3 名、学校主事 1 名の合計 6 名で構成された極小規模校である。少人数であることから、目の行き届いた指導を一人ひとり丁寧に行うことができる。キャッチフレーズを「一人ひとりが光り輝く蕨っ子」と設定し、学校教育目標である「自ら学び考え、心豊かで、たくましい、知・徳・体の調和のとれた児童の育成」の実現を目指し、教育活動に取り組んでいる。NIE 教育の実践がどうすれば効果的に学力の向上につながるかを学校・学級単位で考えていくことにした。3 年目は、異学年で取り組む NIE タイムをはじめ、全校で取り組みながら個々の学力向上に向けて研究を進めた。

2 昨年度（実践 2 年目）の課題

- (1) NIE 活動のよさを職員一人ひとりにまで浸透させられず、学校全体としての取組には至らなかった。
- (2) 教材研究に時間がかかることで、全学年での実践にまで高めることができなかった。【仮説 1】
- (3) 新聞を使った学習での系統性を明確にすることが必要だ。【仮説 1・2】
- (4) 教科と並列して NIE の目標を意識した授業の構築を考えることが必要だ。【仮説 1・2】
- (5) より充実した学習にするためには、時間と空間の確保が必要だ。【仮説 1～3】
- (6) 掲示場所と掲示内容の精選が必要だ。【仮説 3】
- (7) 年度当初にファミリーフォーカスの回数と時期を決めるべきだった。【仮説 4】

3 研究の仮説と内容

研究主題を追究していくために、次のような仮説を設定し、研究を進めることにした。

【仮説 1】 学校組織としての取組と工夫	【仮説 2】 学級としての取組と工夫	【仮説 3】 環境整備と掲示の工夫	【仮説 4】 家庭との連携
作成した全体計画や構想図、教育課程年間計画の工夫をすることで教師が見通しを持って取り組み、子どもたちの学力向上（学習意欲）につながるのではないだろうか。	授業実践を見せ合うことで実践が広がり、日常的な授業実践につなげられ、子どもたちの学力向上（基礎的な知識・技能、思考力・判断力）が期待できるのではないだろうか。	環境整備をすることで子どもが新聞に関心をもって手に取り、身近なメディアや読み物として捉え、子どもたちの学力向上（学習意欲）につながるのではないだろうか。	家庭との連携を効果的に行ったり、保護者に NIE を正確に発信したりすることで、子どもたちの学力向上（学習意欲）につながるのではないだろうか。
ア 単元配列表から変革 イ 実践例 (朝活動：NIE タイム)	ア 国語科授業（低中高） イ 作品投稿（作文・詩）	ア 新聞の掲示 イ 投稿作品や蕨島に関する新聞記事の掲示	ア 家庭学習 イ ファミリーフォーカス実践 ウ NIE 授業参観 PTA

4 研究の実際**【仮説 1】学校組織としての取組と工夫****ア 全体計画や構想図、単元配列表からの変革**

学校組織として計画的、継続的に NIE を進めていく上で、全体計画（図 1）や構想図（図 2）を作成し、毎年改善している。NIE の特性を考えた上で目標設定を行い、各教科等との目標と関連付けた。

構想図（図 2）は、NIE の系統的な学習内容や方法を「写真」「見出し」「リード文」「本文」の項目ごとに具体的に示し、情報論理の「理解」「分析」「反省」「対抗」と並列させた。

図 2 (構想図)

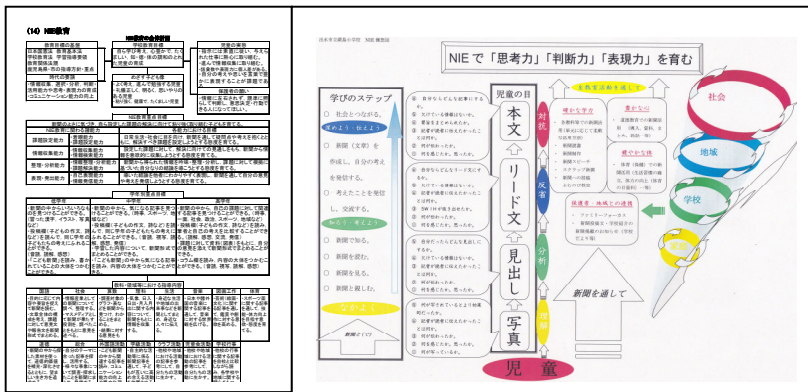


図 3 (単元配列表 (H25 年度 6 年生))

[illegible]

日付/目的	内 容	考 察
5/13 (火) 実態把握 + 取組紹介 + 小学生新聞紹介 意欲向上	○ 新聞アンケート ①家庭で新聞をとっている。(12人/14人)【南日本】 12人②新聞を毎日読んでいる。(5人)③新聞を毎日さ わる。(8人)④新聞を毎日目にする。(10人)⑤新聞 に対するイメージは？(挙手自由発言)○漫画が多い。 知らない事件や出来事が分かる。テレビ欄がおもしろ い。読めるようになりたい。●白黒が多い。漢字が多く て、分からない。 ○ ファミリーフォーカスの紹介と説明 ①紹介(2年生、4年生、5年生の作品)②説明 ○ 小学生新聞紹介(朝日小学生新聞の日別内容)	○ NIE 実践校3年目になり、11家 庭中9家庭が新聞をとるように。 ○ 毎日新聞を掲示しているが、気づ いていない子どもが4人もいた。 ○ 白黒のイメージが強い。 ○ 難しいというイメージがある。 ○ 紹介後に新聞を自由に広げさせ ると、楽しそうに読んだり、記事の 内容について話したりしていた。 ○ NIE タイム後、朝読の時間や昼 休みに新聞を読む子どもが増えた。
6/4(水) 実態把握 + 変化 + 新聞の読 み方 知識技能	○ 新聞アンケートをとる。(口頭質問+発表) ①NIE タイム後に学校で新聞を読んだ。(8人) ②新聞のどこを読むか。 ・一面の写真・広告(写真) → この日は焼酎と 宝くじ・天気予報図・一面の記事 ○ 新聞の読み方について簡単な説明 ①写真に注目する。②大きな文字(見出し)に注目す る。③自分の関心事に合わせる。④複数で読む。 ○ 新聞を読む時間の設定	○ 約20日間で若干ではあるが、学 校で新聞を読む子どもが増えた。 ○ 視点と新聞を読む時間を与える と学年に関係なく、記事の内容を話 し始めた。思い思いに新聞を手に取り、 読み出した。 ○ 読み方や集中する度合いには個人 差が大きかった。学力(読むこと) と関係が強かった。

7/2 (水) ～ 10/22(水) 計 5 回 5W1H の 読み取り 知識技能 思考判断	○ 「クイズに答えよう。Part.1～Part.5」 ①「いつ」②「どこで」③「だれが」「何をした」④「なぜ」⑤「どのように」をキーワードにした問題に挑戦する。(日付だけに注目して記事を読む。) 全 7 問 ① 読売 KoDoMo 新聞 ②～④ 朝日小学生新聞 ⑤ 朝日新聞 ⑥⑦ 南日本新聞 問題用紙 解答用紙	○ 5 分間説明, 10 分間読解。 ○ 誤答例に新聞特有の表現。 ○ 回を追うごとに回答数と正答数が増えたが、「いつ」のように比較的探しやすい回と, 主語と述語を探る「だれが」「どうした」のように, 読む量も書く量も増えたため回答数が減ることもあった。 ○ 5W1H を調べさせる際, 毎回記事を変えたが, 同じ記事で読み取った方が効果的だったかもしれない。
10/8(水) 振り返り 学習意欲 知識技能 思考判断	○ 「学習内容を振り返ろう。」 ① 5W1H の確認 ② 読み取りの仕方の確認 ③ 時事ネタの提供 (ノーベル賞と皆既月食) 今日の二大ニュース Part1	○ 教師主導で「教える」時間に設定した。「教える」内容と「考えさせる」内容を明確にして行ったが, さらなる工夫が必要。 ○ 新聞からニュースや自然の出来事を紹介して意欲喚起につなげた。
10/29(水) 中間評価 学習意欲 知識技能 思考判断	○ 「自分の好きな記事を見つけよう。」 「何に魅かれたか。」を大切に好きな記事を見つける。	○ 1 年生も抵抗なく新聞を広げたり, 15 分の時間以内に記事を選んだりできた。友だちや先生と記事について生き生きと話す姿も見られた。これまでの取組の成果といえる。
11/5(水) ～ 11/26(水) 計 3 回 読み取り 知識技能 思考判断	○ 「好きな記事を読み取ろう。」 前回選んだ記事の 5W1H を読み取る。(学年発達に応じた支援を個別に行う。) 職員と一緒に記事を読み込み, 考える。子どもに寄り添いながら支援できる。	○ 自分で選んだ記事を読み取る。 ○ 子どもたちが選んだ記事は特集記事が多く, 5W1H を探すのには不向きだった。5W1H にこだわりすぎた。 ○ 5W1H を読み取れた 5 年生児童に発表させた。
12/3(水) 記事の読み取りと聞き取り 知識技能 思考判断	○ 「記事を友だちに紹介しよう。」 読み取った内容を友だちに教える。(学年発達や個人の能力に応じて, 「キーワード」「要旨」…等で伝える。) 子ども先生の活躍 記事紹介	○ 5W1H にはこだわらず, 自分が気に入った写真や文等を紹介する時間にした。 ○ 共通の視点がある方がよかった。 ○ 十分な時間設定が必要。 ○ 記事を選ぶ際の条件付けが必要。

【仮説 2】学級としての取組と工夫

ア 国語科の授業 (低・高学年) → 中学年は, 2 月実施。

5 年生の「新聞を読もう」の単元をさらに学習を深めたいと考え, 2 時間扱いを 10 時間扱いで実践。

1 年生は「くらべてよう」の発展的な学習として 2 年生は「きせつのことば」で NIE の授業実践。

イ 各教科等の学習や家庭学習での作文を投稿

国語の学習単元で書いたまとめ (詩・作文) や生活作文を投稿。

【仮説 3】 環境整備と掲示の工夫

ア 新聞の掲示

全員が毎日読書をしたり、給食を食べたりするランチルームに各新聞（当日分）を掲示。

イ 子どもたちの作品を含む新聞記事の掲示

子どもたちの作品等の記事を「新聞で見る蕨っ子の一年」として、廊下に掲示。

【仮説 4】 家庭との連携

ア 家庭学習（新聞ノート）

3年生以上は「新聞ノート」と称してスクラップノートを作成。

イ ファミリーフォーカス

保護者にアンケートや聞き取り年間7回（4月、6月、夏休み、9月、10月、11月、冬休み）実施。

ウ NIEの授業参観や学級・学校PTA

本年度から学級・学校PTAでも新聞記事を使ってお話したり、考えていただいたりする取組開始。

月の学校PTAでは、初めて親子でのよむのび教室（南日本新聞社）も実施。

5 研究の成果と今後の課題

仮説	○成果 ●課題
1	○ 全体計画や構想図、単元配列表を改善することで、授業実践につながった。 ○ 朝の活動や研究授業への取組で、全教職員でNIEの研究を深めることができた。 ○ 子どもの実態を捉えることができ、成果や課題がはっきりとした。 ○ 各教科とNIEの目標を別に設定することでねらいが明確になり、効果的だった。 ○ アンケートをとったことで、子どもたちの変化や要因が分かった。 ○ NIEタイムに全職員で取り組めた。 ● NIEを職員や子どもにとって身近なものにするハードとソフト面の工夫が必要だ。
2	○ 子どもたちの実態を捉え、実態に合った活動ができた。 ○ 教科等の目標や子どもの実態に応じた新聞教材の作成ができた。 ○ 複数の教職員や関係者に授業を見てもらうことで、成果や課題が明確になった。 ○ 子どもたちの学力向上につながった。 ● 教材研究の時間短縮を目指すため、ハードとソフト面の工夫が必要だ。 ● NIEによって学力がついたことを証明する方法を考える必要がある。 ● 新聞を使った学習での系統性をさらに明確にする。
3	○ 子どもたちのがんばりを評価し、刺激し合えるよい環境にできた。 ○ 子どもが主体的に新聞を読むことにつながった。 ● 子どもたちが今以上に主体的に新聞にふれられる環境づくりを目指す。
4	○ 課題を克服したり、学力をつけたりすることができた。 ○ 保護者と子どもが同じ話題で話をするため、家族団欒の時間ができた。 ○ 保護者にNIEについて知ってもらう機会となり、理解と協力につながった。 ● ファミリーフォーカスの頻度や成果について検証が必要だ。 ● 保護者の関わりをより高めたり、温度差をなくしたりする取組が必要だ。

6 終わりに

実践校として取り組んだ3年目。昨年度の課題を全教職員の協力によってほぼ解決できたが、昨年度から続く課題や本年度の新たな課題もある。さらに研究を深めることで本校のNIEがさらに充実できるように努力や工夫をしたい。最後に本研究にあたって、鹿児島大学や南日本新聞社、市教育委員会、多くの教職員の方々にたくさんの御指導や御尽力をいただいた。感謝するとともに実践を重ねることで恩返しをしたい。